

---

# トイレに行きたい男

三代渡吉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

トイレに行きたい男

### 【著者名】

N4879D

### 【作者名】

三代渡吉

### 【あらすじ】

トイレに行かないと、早く行かないと！

男は急いでいた。今まで何人にぶつかってきたかわからない。  
その度に因縁をつけられそうになつても、「急いでいるから」と皆  
避わしてきた。

日々に周りの人間は好き勝手彼に対する憶測をつぶやいているが、  
彼は気にしない。

彼に、そんな暇はないのだ。彼は今トイレにいかなくてはいけなか  
つたのだ。

そんな彼の前に、銀行強盗が現れた。

彼は、銀行の扉の前で、人質を抱えて警察を脅していた。

警察の必死の説得も空しく、強盗犯はただただ逃走手段を出せと訴  
えるばかりだ。

彼が、もっとも理想とするルートの田の前に、その強盗はいた。

仕方ない、と彼は歩く早さを遅くした。

そして、ズカズカズカズカと強盗の前に歩いていくと、拍子抜けした強  
盗からナイフを奪いとつた。

最後には、何か脅し文句を言おうとしていたが強盗の胸を一刺  
しにしてから、また何事もなく走り始めた。

警官達はただただ唖然とし、人質はそのまま意識を失つた。

全く、余計なタイムロスをしてしまった。

自分は急がないといけないんだ、さつさとしないといつ気持ちが  
あつた。

彼は走るのがそんなに得意とは言えなかつたが、体力はあつた。

だから彼は、こうして体力をうまく調節しながら、走り続けていたのだ。

しかし、そんな彼にもつかれが見え始めた。どんな人間でも走り続けるのは難しい。

でも、世間はそんな彼には会わせてくれない。今度は目の前でマンション建設に抗議する団体が、道を完全に封鎖していた。確かにこの場所に作られたら、下にいる住人達は大迷惑だ。見渡す限り、あまり一階建てなどの高層な建物がない。

これでは住民は不便するだろう。特に冬などは貴重な日向が奪われて、死活問題だ。

面倒なものに巻き込まれた、と彼はまたため息をついた。

そして、おもむろにダイナマイトを取り出すと、導火線に火をつけたポイとマンションに投げいれた。

とてつもない轟音とともに、人の悲鳴と骨格の出来始めていた建物が崩れる音が聞こえた。ついでに何かが飛び散る音も聞こえた。目の前でそれを見てしまった抗議団体の数人は氣絶し、また数人は先ほど食べたものを外に戻していた。

その後に残つたのは、瓦礫とうめき声だけだった。

全く、今日はついてない。どうしてこう次から次へと邪魔が入るんだ。

急いでいるといつのに、邪魔が入るといつのは至極イライラするものである。

だが、彼の目の前に、またまた邪魔者が現れた。子どもだ。子どもが泣いているのだ。お母さんお母さんと泣き喚いているのだ。このまま見過ごしては、世間体としてとても不味いことになる。

ああもう面倒くさい、と彼はすぐに決断をくだした。

彼は、泣いてる子どもを抱えると、わき腹を殴って気絶させた。それからは何事もなかつたように、彼はその場から走り去つた。通行人は、呆然とそれを眺めていた。

やつと着いた……彼は目的地に到着した。公衆トイレだ。今までいろんな邪魔があつたけど、もうここにくれば、邪魔するものはいない。

俺は早速目的を果たそうと、それに近づいていった。これで、もう何もかもが安心だ。そう思つていた。さあ、用を済ませよう。

「そこまでです」

男は、突然女に手をつかまれた。

「あなたが盗撮犯だつたのね」

彼はすぐに否定した。

「子ども抱えて女便所に行こうとする怪しい人間が、どう疑いを晴らそうっていうの？」

しかし、すぐに黙つてしまつた。

「それとあなた、罪状がいろいろと増えてるのよ。まず殺人罪」

「いや、だつてあれば正当防衛でしょ」

「別にあなたに敵意を向けていたわけじゃないんだから、立派な通り魔。そして大量破壊兵器を使ったテロ行為」

「あれは、人々のために……」

「その人々が、あのあとどんなことになつたか、思い出したくもないわ。そして、最後に……それ」

「……それ？」

「誘拐罪、しかも現行犯」

「……」

彼は、とても重い罪に問われました。

(後書き)

意味不明、リベンジとして第一段が書きたい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4879d/>

---

トイレに行きたい男

2011年1月27日02時48分発行